

Ominext 社訪問 (2015/8/3-5)

(1) OMINEXT(Hanoi)

OMINEXT社(チャン社長)を訪問。100%日本のオフショア企業。主にゲーム会社からの仕事がメイン。設立4年目。売上は毎年倍増し、社員が現在 80 名程。

ハノイではIT系企業は就職先として人気が高く、給料も他の業種に比べて 1.5 倍から 2 倍ほど多いそうで、OMINEXT 社の社員もハノイのトップ校出身者が多いとのこと。

日本の留学経験者、日本語が出来る社員を配置し、ブリッジSEとして、または、コミュニケーター(通訳、翻訳をメインとしてコミュニケーションを取り持つ人)として活躍。大半が 20 代の社員で、女性社員も多くて活気があり華やかな印象。



開発を担当してるスタッフ達



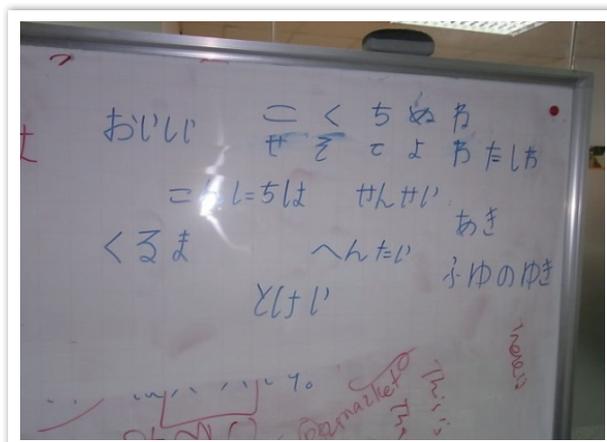
(左から) チャン社長、筆者、副社長



オフィスの様子



オフィスの様子



(日本語の勉強した跡。へんたい?)

(2) OMINEXT 社とのつきあい

OMINEXT 社とは、1年前から、弊社の新商品のアプリ部分 (iOS と android) の開発を依頼している。今回は開発も佳境に入ってきたので、激励も兼ねて打合せのために訪問。

(3) オフショア開発の課題

①開発方法論に関して共通の土台がないので、各開発フェーズでの食い違いが多い。特にテストについて、大きなギャップがある。

Skype を使った WEB 会議や PJ 管理ツールを使って進捗を管理するが、ツール以前に、各フェーズの定義の互いの共通認識のギャップが大きく、有効活用できていない。

②コミュニケーター

他の PJ も担当するために、急ぎの連絡や報告が遅延して、タイムリーに開発者に伝えられない。テストフェーズではこれが混乱の一因。Q&A もかみ合わないことが多い。

③発注者側の準備不足。説明不足。

これが一番重要。PJ 管理については、発注者側のやり方で行うべきだった。オフショア開発に馴れてるので先方のやりかたにまかせたが、欲しい情報が欲しい形で得ることができず、Q&A もかみ合わず混乱した。

PJ の進め方、各資料 (ドキュメント) の意味やその運用方法、何よりもプログラムの仕様の説明は十分に行う必要があった。この点は、日本国内同士で発注するより、余分に手間がかかる。オフショアのために工数や人が余分に必要となることを留意、覚悟する必要がある。

(4) どうしたらうまく活用できるか？

上記の①②③について十分に双方で共通の認識を持ったうえで個別に対応することが必要。社長以下、会社全体、個人個人のやる気や能力は高いので、PJ管理の方法が確立できれば、オフショア開発のメリットが活かせると思われる。(別途まとめを作成予定)

(5) 街の様子

時期的には雨季の終盤。雨が降ったりやんだり。やはりバイクが多い。二人乗りが普通で危なっかしい。



バイクが圧倒的に多い。雨でも構わず。

(6) ハノイの朝



この路地に入って行ったところにホテル。



路地に入って、入口を振り返ったところ。



露店というのか、朝食中（7：30頃）



子供も居り家族連れで朝食。



結構にぎやか。



行商中というのか。



あちこちに座っている。



(7) 寺院と学校 (小学校?)



路地から出た直ぐに立派な古い寺院があった。これで迷ってもここが目印に。



寺院の隣に小学校らしい



校門の前の屋台で、やはり、朝食。

(8) ホテル周辺

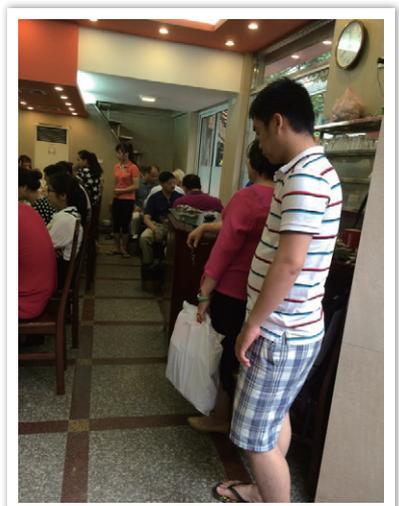
夜は暗くて迷ってやっとたどり着いたホテル。翌朝、迎えが来るまでに周囲を散歩。

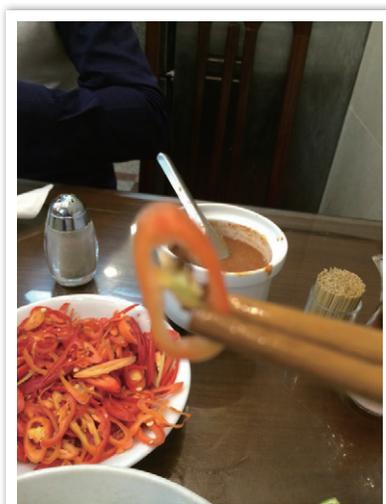
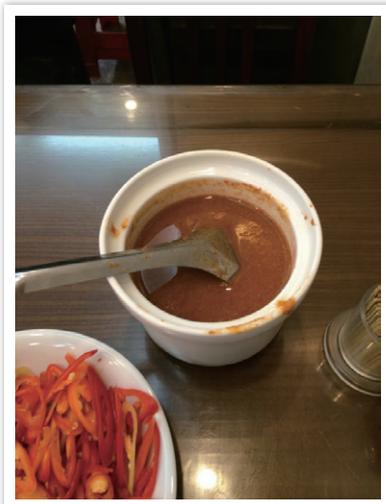
夜は怖い印象だったが、旧市街地のど真ん中だったみたい。都市開発が遅れて昔のまま（フランスの植民地の匂いが残っている）



(9) 3日目の朝食

旧市街地にあるフォーの1号店。





(To be continued)